

H24年7月19日

伊沢市長への説明資料

議題 京成電鉄空港乗り入れに伴う北総線の白井市民利便性後退についての打ち合わせ

1 現状の把握

- ① H22年の京成乗り入れ以降、都心と白井を往復する白井市住民にはその所要時間が大幅に増加したと認識されている。北実会サポーターからも多くの苦情が寄せられた。
- ② その実態を調査したところ
京成スカイライナー（以下S/L）とアクセス特急（以下A特急）の乗り入れ後、ダイヤは別紙2に見られる通りであり、白井、西白井、小室駅利用者は従来（北総線のみ時代）を大幅に上回る所要時間を強いられている事が判明した 別紙1参照
- ③ これは都心から帰宅する場合に顕著であり、原因はスカイライナーとアクセス特急の通過待ちによってもたらされる。
通過待ちは矢切、東松戸、新鎌ヶ谷の3駅のいずれかあるいは2か所でおこなわれ、従来、青砥—白井間 25分程度であったものが現在は30—34分を要している
- ④ これは西白井、白井、小室の3駅にA特急（S/Lは勿論）が停車しないこと、S/Lが新鎌ヶ谷で追い越すこと、そして新鎌ヶ谷に乗り継ぎの普通が待機していない事に起因している
- ⑤ 一方でアクセス特急が利用可能なCNT駅利用者は青砥—CNT間が21分で到達出来る等利便性がアップした面もある

2 今後の方向として

このような状況では大部分の白井住民には殆ど利用しない京成成田空港線が参入したおかげで貴重な時間の浪費を強いられており、S/Lは勿論のこと、A特急による利便性も与えられておらず、運賃貢献面で重要顧客と思われる白井市住民に多大な犠牲を強いているのが実情である。いつまでも忍耐出来るものではない

高運賃と同時にこの利便性の後退により、この地域を放棄する住民も増加している事（就職困難度、通学費用の負担増、貴重な時間の浪費など）や将来の白井市の町起こしプロジェクト等への妨げ（他地域住民の呼び込みにマイナス、不動産価格低迷）にもなるものであり、早急に市と北実会、沿線住民が一体となって北総、京成に改善の

打ち合わせを申し入れるべきと考える

3 具体的な改善案として

下記を提案したい

- ① S/Lの追い越しは新鎌ヶ谷でなくCNT駅に変更する
 これにより西白井、白井、小室住民はS/L待ちがなくなる
 これはS/Lの上野出発時間の調整で可能となる筈

S/Lは26本/日。朝
 以外は原則2本/時間

- ② A特急の恩恵を享受するために西白井以遠の各駅をすべて停車駅とする。
 これによるA特急の遅れ時間はわずか約4分程度。
 全駅停車が不可能な場合は乗降客の多い西白井、白井、印西牧の原3駅追加
 を推奨したい。
 また次善の策としてA特急の半分を急行として北総急行停車駅に停車することも
 検討できる。

- ③ 上記とは別に新鎌ヶ谷での普通への接続をスムーズにすることは喫緊の重要事項。
 これにより殆どの白井住民はA特急の恩恵にあずかれA特急の価値がアップする。
 普通電車は矢切、東松戸でA特急通過を待つのでなく新鎌ヶ谷で待つのがベター。
 (矢切—新鎌ヶ谷は12分、東松戸—新鎌ヶ谷は7分の距離であり新鎌ヶ谷への先行は大きなメリットを生む)

参考資料

関西の阪急、阪神電車は大阪—神戸間31, 4KMを運行しており
 中間点に西宮市を持つことなどから白井と都心を結ぶ北総鉄道(32, 3KM)
 に極めてよく似た状況である。阪急、阪神の西宮駅での普通電車への接
 続状況は利用者に対する配慮がきわめて親切である。参考資料として北総線
 中間駅、新鎌ヶ谷での接続状況と上記阪急、阪神の西宮駅での接続状況を示
 す時刻表を添付する 別紙A, B, C

追記 料金比較

阪急、阪神	大阪梅田—三宮	310円	通学定期	1か月	4,380円
北総線	高砂—印西牧の原	750円	通学定期	1か月	14,340円

以上